



AUE News

2013年1月15日

第 54 号

編集・発行

愛知教育大学広報チーム

TEL 0566-26-2738

FAX 0566-26-2500



目次

- 行事予定(1月16日-31日)
- トピックス
 - ・ 冬の子どもまつり
 - ・ 招へい教職員による講演会
 - ・ 「あかりアートの世界」展
 - ・ 愛知教育大学・愛知県内教育委員会地域教育推進協議会
 - ・ 冬季省エネポスター表彰式
 - ・ アロマセラピーセミナー
 - ・ 交通安全講習会
 - ・ 教育研究基金感謝状贈呈式
 - ・ 教員免許状更新講習
- ・ 音楽科有志によるミュージカル「メリーポピンズ」
- ・ 個人情報保護・情報セキュリティセミナー
- ・ 理科実験プレ教員セミナー
- ・ 天文台一般公開
- お知らせ・報告・投稿
 - ・ ATFスペシャル
 - ・ 第3回ものづくりリテラシーセミナー
 - ・ 海外協定校からの招へい教職員紹介
 - ・ 催しもの案内

行事予定(1/16-31)

- 16日(水) 教職員メンタルヘルス講習会(12:45～ 第一会議室)
教授会(13:30～ 第一会議室)
- 18日(金) 附属学校運営委員会(15:00～ 第五会議室)
- 19日(土) 大学入試センター試験(20日まで)
- 22日(火) 経営協議会(10:00～ KKRホテル名古屋)
- 29日(火) 役員会(13:00～ 学長室)
安全衛生委員会(16:40～ 第五会議室)

トピックス

冬の子どもまつり(12/16)

「第36回冬の子どもまつり」が2012年12月16日(日)、本学構内で開催され、699人の子どもたちが来場、137人の学生が参加し、ゲームやイベントを一緒に楽しみました。



前日までの雨が止み、晴天になったものの、外は風が強く寒い1日でしたが、午前9時の受付開始時間には、開場を待ちわびる子どもたちが長い行列を作っていました。受付でもらったパンフレットを首に掛け、開会式会場の第一体育館へ向かいました。9時40分からの開会式では、実行委員が落とし物をしたり、迷子になった際の注意事項を説明。式終了と同時に、子どもたちは一斉に、それぞれお目当ての企画がある会場へ向かいました。第一共通棟の1・2階の教室、第一・第二体育館、第一共通棟と第二人文棟の間の中庭などでは、学生たちが子ども

まつりのために考えた巨大積み木や人形劇、紙芝居、オカリナ教室、ミニゲーム、スタンプラリー、プレゼント抽選会など楽しい催し物が繰り広げられました。

子どもたちは寒さも気にせず、あちこちの会場へと走り回り、「いろいろなゲームができて楽しかった」「お兄さん、お姉さんたちと一緒に遊べて楽しかった」「また、遊びにきたい」などと話し、プレゼント抽選会のある夕方の閉会式には、再度多くの子どもたちが集まり、3体のぬいぐるみの“子まつりキャラ”も登場して、子どもまつりを最後まで盛り上げていました。

(学生支援課課外教育担当係長 亀山重人)



招へい教職員による講演会(12/18)

12月18日(火)、国際交流センターは、協定校からの招へい教職員による講演会(第3回)を開催しました。台湾・彰化師範大学の張清泉教授とタイ・チェンライ ラチャパット大学事務職員のニコン・トーンスック氏を講師に迎え、松田正久学長をはじめとする教職員と多くの学生が参加しました。



書道を専門とする張先生の講演テーマは、「台湾と日本における書道教育の考察」。張先生が本学学生を対象に行った書道の授業の様子や、受け入れ教員である木村博昭教授(国語教育)との研究交流内容、日本と台湾の書道教材の相違点などが発表されました。また、日本の旧跡や観光名所で張先生が目にした様々な書についても紹介し、今回の滞在が研究にとり非常に有意義であったとの感想を述べました。

ニコン・トーンスック氏は、チェンライ ラチャパット大学について、管理運営組織や学部構成、学事暦などの概要とともに、卒業式や運動会などのイベントの様子を写真やビデオを交えて紹介しました。後半では、タイ北部に位置するチェンライ市の紹介も行われ、日本とは全く異なるタイの大学や街の様子に、参加者は興味深そうに見入っていました。

講演を行った2人は、今回の招へい機会について感謝の意を述べるとともに、これを機に本学との交流をさらに深めていきたいとの意気込みも示しました。

第4回の講演会は、韓国と中国からの招へい教員による発表を予定しています。

(教育創造開発機構運営課 国際交流担当 宮内春菜)



「あかりアートの世界」展(12/19-24)

美術科の学生による企画展「あかりアートの世界」が刈谷駅前商店街ギャラリー「スペースAqua」で12月19日(水)～24日(月)に開催されました。

今年で3回目。今回は美術選修・専攻の1～4年生、大学院生、教員の計21人が、あかりをテーマにした電飾やオブジェ、立体作品を出品しました。

大川泰平さん(美術選修3年)の「街と椅子」は、学内で集めた木の枝を一つひとつ綿のひもで結んだ力作。「自然が好きで、自然の素材で生活に溶け込めるものが作りたかった。あかりを付けて本を読むことができますよ」とアピール。初日に会場を訪れた松田正久学長もその座り心地を確かめていました。岡本真由子さん(教育学研究科芸術教育専攻M1年)の「SORA」は、ビニールシートにガラスペン





で模様を描いて、光を投影することで不思議な映像が浮かび上がる作品。米山鵬作さん（美術専攻3年）の「彼の肖像」は、コルクボードにメモ用紙などを貼り付け、その影が人の横顔に見える影絵の方法で表現。ユニークな作品ぞろいで、見る人を楽しませていました。



22日（土）には学生の指導で、子どもたちを対象にした、あかり作品づくりのワークショップ「きらきら飾りをつくろう」が、24日（月）には本学のアカペラサークルによるクリスマスのミニライブも行われました。

愛知教育大学・愛知県内教育委員会地域教育推進協議会(12/19)

12月19日（水）、午前10時からKKRホテル名古屋で「第11回愛知教育大学・愛知県内教育委員会地域教育推進協議会」が愛知県内教育関係者で構成する学外委員11人、本学の都築繁幸学生・連携担当理事はじめ学内委員12人と事務局関係者9人が出席して開催されました。



了しました。

都築理事、愛知県教育委員会の稲垣寿義務教育課長のあいさつに続いて、現職教員研修、地域貢献事業などの議事に入りました。第11回の開催となる今年は、地域教育連携を議題とした「地域教育連携に関する当面の課題について」を中心に行われ「学生ボランティアの必要性」「タフな教員を育成するためには」「教育機関との連携」等さまざまな意見交換がなされ、2時間の会議は終

（教育創造開発機構運営課 地域連携担当 張山吉野）

冬季省エネポスター表彰式(12/19)

「冬季の省エネルギーについて」をテーマに本学財務部が募集したポスターの入賞作品が決まり、12月19日（水）、学長室で表彰式が行われました。学生、附属学校の児童、生徒、園児、教職員が対象の学内コンテストで、3回目の今回は、同10月1日（月）～11月22日（木）に募集し、20作品が寄せられました。審査は役員部局長会議構成員と監事、部長の投票で行われ、最優秀賞には附属岡崎中学校生徒の作品が、優秀賞には附属岡崎小学校児童、附属名古屋中学校生徒



る結果となった」と分析しています。

と財務企画課職員の作品がそれぞれ選ばれました。いずれも節電などを呼びかけたもので、家族の温かさ、ぬくもりで寒い冬を乗り切ろうという作品アイデアも注目を集めました。

表彰式では松田正久学長から受賞者に賞状と記念品が贈られました。応募作品は附属図書館に3月中旬ごろまで掲示されます。

財務部は「コンテストは回を重ねるごとに応募数が増加。特に小中学生の“省エネ”についての意識の高さがうかがえる結果となった」と分析しています。
（施設課機械係 谷川正憲）

アロマセラピーセミナー (12/19)

保健環境センターが主催し、学生を対象とした健康講座「アロマセラピーセミナー」が12月19日(水)、保健環境センターで開催されました。講師は日本アロマ環境協会の認定資格をもつ本学看護師の間瀬由紀さんが担当しました。

講習会では、心地よい香りの漂う中、アロマセラピーの概要や取り扱いの注意点、香りを楽しむ方法などの説明を受けながら、実際にアロマオイルを使用した「ルームスプレー」作りを体験しました。出来上がった自分好みのルームスプレーは、持ち帰りができるということで、参加者の表情は真剣でした。好みの香りを複数のアロマオイルを組み合わせ



出す作業は、相性の良い組み合わせを間瀬さんに指導してもらいながら、楽しい雰囲気の中で行われました。



本会は、募集人員が10人であったにも関わらず、多数の学生の申し込みがありました。興味を持って集まった参加者の中には男子学生の姿もあり、聞き入っている姿が印象的でした。最後に参加者をお願いしたアンケートでは、全員が「非常に良かった」と答えるなど大好評で、今後の保健環境センターの活動に大変参考となるとの意見も寄せられ、有意義な催しとなりました。

(学生支援課 増田康子)

子)

交通安全講習会 (12/19)

本年度の交通安全講習会が12月19日(水)午後1時半から講堂で行われました。来年度、自動車により通学もしくは通学する可能性のある学生が対象で、入構車両登録の要件に課せられている講習会です。今回は約1,000人が参加しました。

冒頭、主催する学生支援委員会副委員長の舩尾日出志教授から、入構車両登録制の趣旨及び毎年行っているこの交通安全講習会の意義などを説明、引き続いて、須賀達也学生支援課長から学内交通ルール及び近隣での走行・駐車のマナーなどについて話がありました。



メインの講習では、前半、交通安全全般について、愛知県警察本部交通総務課の伊藤学調査官が他人事ではない交通事故と危機管理について講演。交通事故ワースト1である愛知県の交通事故の現状と、事故を起こさないための日頃からの諸注意などについて述べました。

後半は、中日本高速道路名古屋支社羽島保全サービスセンターの藤田俊樹副所長が高速道路での交通安全マナーについて講演。安全な高速道路への入り方、高速道路上で事故や故障を起こした際の対処、渋滞時の走行方法など、学生にとって有益な情報を披露しました。

(学生支援課副課長 吉田宏)

教育研究基金感謝状贈呈式 (12/20)

12月20日(木)午前11時半、本学名誉教授竹原裕氏(美術)からの教育研究基金への寄附に対する感謝状贈呈式が学長室で行われました。松田正久学長が「このたびは、多額の寄付をされ、本学が行う学生支援事業に多大な貢献をされました。よってここに深く感謝の意を表します」と感謝状と記念品を竹原氏へ手渡しました。竹原氏は「学生た



ちの教育や研究に役立てば嬉しい」などと述べました。

同席した都築繁幸理事と共に講堂に移動し、ロビーの壁面に設置された高額寄附者の氏名が記載された銘板に、新たに竹原氏が加わったことを確認し、記念撮影を行いました。

松田学長は「この寄附者銘板にできるだけ多くの方の名前が記されるよう、引き続き寄附をお願いしていきたい」とあいさつし、この後、学長室で昼食をとりながら、竹原氏を囲んで懇談しました。



本学では、教育研究基金に一定額以上の寄付をしていただいた方に対して随時、感謝状を贈っています。また、その寄附者のお名前を講堂ロビーの「愛知教育大学大学教育研究基金寄附者銘板」に記して、末永く顕彰させていただいています。1月15日現在、銘板の数は、企業等18機関、個人64人です。

詳細は「愛知教育大学教育研究基金ホームページ」をご覧ください。

<http://www.aichi-edu.ac.jp/intro/kikin/about.html>

(秘書広報課長 伊藤純一)

教員免許状更新講習 (12/22-28)

201年度教員免許状更新講習(冬期講習)が12月22日(土)~28日(金)、第一共通棟、音楽棟、大学会館などを会場に実施されました。現職教員を対象に、勤続10、20、30年目に教員免許状更新に義務付けられている講習で、冬期は計16講習に延べ563人が参加しました。

講習の内容は、最新の教育事情から、学級経営のあり方、外国人児童・生徒のための日本語教育、教育現場でのパソコン活用法、リコーダーとピアノの指導方法などと多彩。非常勤講師の内田良氏による「学校安全の死角—数字が示す子どもの危険—」では、「学校に関する数字を把握することで話が具体的になり、説得力のあるものになります。例えば全国の小中学校の1学年の人数、小中学校の教員の数、国立大学の学生数は…」と具体例を説明すると、受講生がうなづく姿も。数字を挙げることによる効果などを実感した模様でした。



音楽科有志によるミュージカル「メリーポピンズ」(12/23)

音楽科1、2年生の有志によるミュージカル「メリーポピンズ」が12月23日(日)、大府市勤労文化会館もちのきホールで上演されました。



同公演は、一昨年度に当時の1、2年生有志が結成したミュージカルサークル「ミュリム」によるもので、今回が3回目。「メリーポピンズ」は、1964年に製作され、米アカデミー賞5部門を受賞したディズニー屈指のミュージカル映画として知られている名作で、1910年代のロンドンを舞台に、乳母のメリーポピンズがバンクス家で活躍する物語。1、2年生合わせて39人がキャスト、音楽を担当しました。

学生たちは、前回の公演から、ほぼ1年かけて準備。脚色・振付に、演出家の竹内裕二氏を迎え、音楽、芝居、踊りをはじめ、衣装や大道具・小道具の準備、メイクなどを自分たちの手で行いました。当日は、練習の成果を発揮し、息の合った歌や踊りで、多くの観客を楽しませました。

公演を終え、ミュリム代表の村松春香さん(音楽専攻2年)は「多くの皆さんの協力で、公演を無事に行うことができました」とほっとした様子。音楽教育講座代表の林剛一教授も「この経

験が、彼らが教員になった時に生きるのでは」と学生たちの頑張りを称えました。

個人情報保護・情報セキュリティセミナー（12/25）

12月25日（火）午後1時半から、情報処理センターコンピュータ講義室で、個人情報保護・情報セキュリティセミナーが開催され、本学の職員・学生のほか、他大学の職員も含め53人が参加しました。



講師には、（株）アイ・ティ・ワークス代表取締役会長の鈴木秀美氏をお迎えし、「知らないで済まされない情報セキュリティ対策—基本的考え方と最低限の対策—」のテーマで、セキュリティに関する基本的考え方、最低限の対策、企業が実施している対策について講演していただきました。

参加者はIPA（独立行政法人情報処理推進機構）製作のDVDを見て、情報漏えいやウイルスの脅威の恐ろしさを具体的に学ぶとともに、情報

セキュリティ対策実施状況チェックリストを各々がチェックし点数化することにより、自分の対策状況を確認できることが、大変参考になった様子でした。

最後に鈴木氏は「情報漏えいを完全に無くすことは無理ですが、情報セキュリティ意識を持ち、種々の対策を実施することが大事です」と話され、セキュリティに対して再認識することを強調しました。
（情報図書課 情報化推進室長 伊藤秀夫）

理科実験プレ教員セミナー（12/28）

今春から教員になる学生を対象にした「理科実験プレ教員セミナー」が12月28日（金）、自然科学棟で行われました。

2010年3月から年に数回開催され、今回が9回目。生物学、化学、物理学、地学の各実験講座が開講され、本学をはじめ他大学から1～4年の学部生、大学院生、延べ22人が参加しました。

生物学実験講座では、講師の澤正実教授が生物を観察する際の顕微鏡の取り扱いの方法などを解説。学生は倍率やピントの調節、光学顕微鏡と電子顕微鏡の光源による違いなどを、実際にアブラハバチの卵を観察しながら学んで、きれいな像を見るコツをメモに書き留めていました。春から小学校教員になる学生は「一通りは



分かってはいても、教えるとなると自信がないので参加しました」「難しいけれど、生物の姿を顕微鏡を通して直に見ると感動します。そんな感動を子どもたちにも知ってもらいたい」。他大学から参加の学生も「こういうサポートが充実しているのは教育大学だから。教員になったときに役立てたい」と感想を話していました。

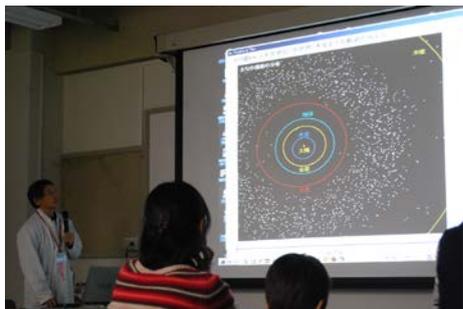


この日は、松田正久学長が会場を訪れ、「子どもと一緒に実験をできる教員をどうやって育てるかが課題。科学・ものづくりが好きな先生をつくるため、このような講座をやっています。学校現場で安心、安全な実験をして、子どもたちが理科好きになるような授業ができるように、今日の講座でしっかり学んで自信をつけてください」と激励しました。

天文台一般公開（1/12）

本学天文台の第79回一般公開が1月12日（土）午後5時から自然科学棟で行われました。ミ

ニ講座、3D 上映、観望会に子どもから大人まで幅広い方々が 30 人参加しました。



ミニ天文講座では、「ここはどこ？—パワーズオブテンの世界—」をテーマに澤武文教授（理科教育）が講演。澤教授の自作パソコン版パワーズオブテンを用い、宇宙の大きさはどのくらいなのかを見ていきました。スバル望遠鏡や星団、銀河の美しい画像が次々と登場し、参加者の目をくぎ付けにしました。

この後、自然科学棟屋上にある天文台にて観望

会を実施。小型望遠鏡を 3 台設置し、様々な天体を観望しました。直径 40cm の反射望遠鏡では、木星やオリオン大星雲 M42、ぎょしゃ座の散開星団 M36、M37、M38 を観望。木星は縞模様のはっきり見え、多くの方が喜ばれていました。中には、何度も列に並び望遠鏡をのぞいている人もいました。

観望会と同時に 3D 上映を行いました。「太陽系の旅」1 番組を 1 回 20 分で上映、澤研究室の 3 年生が初めての解説をしました。これから約 1 年間は彼らが主体となって、澤教授の下で一般公開の運営を行います。彼らの今後の活躍に期待しています。

（宇宙物質科学コース 4 年 伊藤実彩）



お知らせ・報告・投稿

ATFスペシャル(報告)

12 月 13 日（木）午後 5 時から、学生・教職員参画型の FD 組織、愛知教育大学 CoNandE 委員会（あいこね）主催による、「ATF (Aikyo Talking Field) スペシャル」が開催されました。ATF は、あいこねの学生スタッフが、これまで他大学で開催されている学生 FD サミット等に参加し、他大学の学生・教職員と議論、交流する中で、「大学で学ぶ意味」とは何だろうかという、素朴な疑問を話し合ってみたくて企画しました。

夏前から、イベントの企画検討を重ね、大学教育研究センターFD・学習支援部門の支援を受けながら、教務企画委員会の協力の下、学生への授業に関するアンケートを実施しました。その結果から「授業外学習の時間」と「ためになった授業の数」に着目し、「あなたは『勉強』してますか？ 学んでますか？—授業外の学びをするためには？—」と、「授業できますか？—ためになる授業をするためには？—」という 2 つのテーマを決定しました。



当日は、学生 15 人（他大学 2 人含む）、教員 6 人、職員 1 人が参加し、「そもそも大学でなければ学べないことは何か」「ためになる、すぐに分かるものが本当によい授業なのか」といった率直な意見が活発に交わされ、あっという間に予定の 1 時間半となりました。

今回一番多く聞かれた声は、「学生、教員、職員と、立場が違う者同士が集まって『大学』『学び』について話せて非常に楽しかった」というものでした。今後は、単に楽しい、面白いだけではなく、そこから新たな何かを生み出していきたいと意気込む学生スタッフの姿を見て、ますます多くの方に参加してほしいと強く感じました。

（学生・教職員参画型 FD 組織あいこね 職員スタッフ 満田清恵）

第3回ものづくりリテラシーセミナー(報告)

12月14日(金)の午後4時40分から、第二人文棟日本語教育演習室Iで、「第3回ものづくりリテラシーセミナー」として、国立福井高専准教授の中村吉秀氏による講演会「ものづくりと言語表現の接点」を開催、ものづくり教育における国語の役割についてお話いただきました。



高専では、一般科目のコマ数が限られているため、一般教養と周縁技能(専門教養:ものづくり・技術教育、英語、テクニカルライティング等)の両方を、いかに効率よく習得させるかが課題となるそうです。そこで、教養を身に付けながら周縁技能を習得できるように、どのような実践をしているのか、国語の授業を事例で紹介されました。さらに、『枕草子』の第1段「春はあけぼの」を例に、一般的な見解に譲歩しながら独自の見解を示す清少納言の文章表現と、既知の成果をもとに新たな地平を開いていくものづくりの方法との間に接点を見出すことができると指摘されました。

中村氏はものづくり教育について、技術の知識のみならず、発想力や想像力を養い得る自由さを伴うべきであるとし、同時に一般科目についても、緩やかな発想で構築する必要があると述べました。それを踏まえた質疑応答では、ディスカッサントの鎌田敏之准教授(技術教育講座)を中心に、La(リベラル・アーツ)科目を構築する際、どこまでを「ものづくり」として包括できるのか、教養教育のために本学の多様な専門をいかに生かせるのか、具体的に議論する場となりました。

(教育創造開発機構大学教育研究センターリベラル・アーツ教育部門研究員 長谷川詩織)

海外協定校からの招へい教職員紹介(お知らせ)

今年度の「海外協定校からの教職員招へいプログラム」には、すでに6人の教職員が参加しました。昨年12月から今年1月にかけては、新たに3人の教員が来日しています。

- ① 王彤氏(中国・南京師範大学講師)
滞在期間:2012年12月19日(水)~2013年2月12日(火)
研究内容:日本語と日本文化
- ② 魯熙正氏(韓国・光州教育大学校教授)
滞在期間:2013年1月7日(月)~2013年2月23日(土)
研究内容:学校暴力とイジメに関する道德教育的処方
- ③ 李栄晩氏(韓国・晋州教育大学校教授)
滞在期間:2013年1月8日(火)~2013年2月7日(木)
研究内容:小(初等)学校の教師の心理的消盡の経験



国際交流センターでは、これら3人の先生を講師に迎え、全学を対象とした講演会の実施を予定しています。日時が確定次第お知らせしますので、ぜひ奮ってご参加ください。

催しもの案内

- ◆企画展示「摩擦の科学」~文部科学省「情報ひろば」凱旋展示~
開催中~2月1日(金)まで。入場無料
附属図書館2階 アイ・スペース
本学の三浦研究室の摩擦についての研究成果をパネルや工業製品で紹介。
問い合わせ:附属図書館 TEL 0566・26・2681

◆第103回劇団把° 夢（ばむ）新春公演

1月19日（土）①14：00～ ②18：00～

20日（日）③11：00～ ④14：30～

七ツ寺共同スタジオ（名古屋・大須）

演題：「カメコが笑った日」 作・石山英憲 演出・仁井貴文

料金：前売り・予約500円 当日800円

問い合わせ：ヒラさん TEL090・2830・8530

Kameko2013@excite.co.jp

<http://gekidanpamu.nobody.jp/index.html>

◆愛知教育大学エコプロジェクト企画 第2回 特別講演会

「環境研究と環境教育の融合によるエコキャンパスづくり」

1月23日（水）13：30～15：00 入場無料、予約不要

第二共通棟 421 講義室

第一部 環境講演「大学低炭素化への道」～環境報告書ベンチマーキング研究からの展望～

講師：酒井伸一・京都大学教授、京都大学環境科学センター長

第二部 エコプロジェクトの紹介

講師：三宅明・愛知教育大学教授、愛知教育大学保健環境センター長

問い合わせ：学生支援課保健環境係 TEL0566・26・2187

◆第5回アカデミックカフェ

1月31日（木）17：15～19：00 入場無料、事前予約不要

本部棟3階 第五会議室

テーマ：海底ほりほり・深海掘削で地球の営みを探る一国際科学プロジェクトが明らかにしたほっとスポットの新しい描像—

講師：星博幸准教授（理科教育講座）

対象：学生、教職員、一般

地球の「ホットスポット」のふるまいを探る大プロジェクトに世界中から集まった科学者が掘削船に乗り込んで研究した成果、新事実とプロジェクト研究の姿、科学者の人間模様などを、航海中のエピソードを交えて紹介。

問い合わせ：秘書広報課 TEL0566・26・2737

◆ヨウジ no ゴヨウ—1本1本のつまようじが感動のアート作品に—

2月2日（土）～11日（月）10：00～17：00

刈谷駅前商店街ギャラリー「スペースAqua」

卒業生・葉山亮三氏の個展。刈谷駅前商店街振興組合主催。

2日10：00「造形あそびワークショップ つまヨウジの動物たち～変化する日用品」

対象・小学生。同伴可 定員・先着20人 参加料300円 応募締め切り・1月25日 申し込み先・Fax0566・26・5812（澤田さん）

問い合わせ：澤田さん TEL0566・21・1109

◆公開シンポジウム「いま、『いじめ』問題を考える～愛知教育大学からのメッセージ～」

2月2日（土）13：00～16：30 入場無料、事前予約不要

名古屋商工会議所ビル3階 第5会議室

対象：教育関係者、一般

内容：あいさつ・松田正久学長

第1部は基調講演。講師は多田元氏（弁護士・南山大学法科大学院講師）。テーマは「いじめ問題と向き合う～子どもの視点から～」。

第2部はパネルディスカッション。パネラー・小関俊祐氏（学校教育講座助教

心理臨床) 川北稔氏 (教職大学院准教授 社会学) 萬屋育子氏 (教職大学院特
任教授 児童福祉) 松原信継氏 (学校教育講座准教授 教育法)。

コーディネーター・折出健二氏 (副学長)

問い合わせ：教育創造機構運営課 Tel 0566・26・2708

編集後記

いよいよ、受験シーズンに突入。19日、20日は大学入試センター試験が行われ、本学の会場でも3000人余りが挑む予定です。毎年、厳寒のこの時期は、天候やインフルエンザなどが心配されますが、天気はともかく、受験生の皆さんは体調管理には十分気をつけて万全の体制で力を発揮してください。大学の教職員も、総動員で試験監督や交通誘導など、さまざまなサポートに当たりながら、皆さんの健闘を祈っています。ガンバレ！受験生！ (K)

投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール：kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者：総務担当理事 折出 健二